



# 令和4年度 市川中3年グランドデザイン



## 学年経営目標

最高学年としての自覚を持ち、知徳体のバランスのとれた力を身につけ、目標に向かって主体的に学び、行動する生徒の育成

### 今年度の重点

#### 確かな学力の育成

- ・生徒が主体的に授業に取り組めるように、ICT機器やグループ活動を取り入れるなど、授業内容を工夫する。
- ・授業規律の指導を継続して行い、集中して授業に臨む態度が身に付くよう指導する。
- ・新研究を活用した自主学習の計画や振り返りを行い、高校入試を意識した家庭学習の内容の充実を図る。
- ・テスト勉強や自主学習の取り組み表を活用し、学習のPDCAサイクルを自身の学びに生かすよう指導する。
- ・放課後の学習会などを活用し、個に応じた指導を行う。
- ・卒業後の進路に向けて、目標を明確にし、学習するよう指導する。

#### 豊かな心の育成

- ・道徳の授業などを通して、お互いの人権を守り、いじめを絶対に許さないという集団の雰囲気を作る。
- ・行事などで多様な活躍の場を作り、お互いの良いところや頑張りを認め合えるような場を大切にする。
- ・生徒1人1人との会話やスマイルライフなどを通して、生徒の思いや考えを知り、適切なアドバイスを行う。
- ・リーダーを中心に仲間と協力し、互いに働きかけながら、よりよい方向に進もうとする集団づくりに努める。
- ・自分が住む地域について学ぶことで、広い視野で社会全体のことを考えることができるようにする。

#### 健康・安全

- ・正しい情報モラルを身につけられるように、SNSの使い方をはじめとした情報モラル教育を行う。
- ・コロナ禍における新しい生活様式を定着できるように指導をする。
- ・安全で効率的な部活動を行い、部活動を通じて心身の健康の向上を図る。
- ・教師と生徒がともに清掃活動を行い、校内の環境美化に努める。

#### 地域との連携

- ・学年通信や、学級通信を通じて、保護者への情報提供を積極的に行う。
- ・保護者との連絡を丁寧に行い共通認識を持って生徒の指導にあたる。
- ・PTA活動への積極的な参加をお願いする。
- ・地域学校協働本部と協力した活動を行う。

### 取組の具体と分掌

- ・「タブレット」「MANAボード」を活用するなど、授業に工夫して取り組み、主体的、対話的な授業を工夫して行う。(塩島)
- ・授業後の評価を日直が確認し、帰りの会などでの振り返りの活動に生かすなど、生徒自らが授業を大切にすることが持てるような取り組みを行う。(担任)
- ・「IMPシート」「個別のテスト取り組み表」を活用し、自らの学習への取り組みを振り返り、PDCAサイクルを身につけられるように指導する。(吉村)
- ・放課後学習会では、質問の場所を設定し、個に応じた指導を行う。(全員)
- ・進路学習では、担任による定期的な進路相談を行い、高校のオープンスクールへの参加をもとに情報を各自が整理するなど、進路の目標が明確になるような援助を行う。(村松)

- ・道徳の授業を学年職員全員で担当し、人権や、いじめを許さない心、平和について学年全体で考えていく。(全員)
- ・行事に向けてリーダーに考えさせ、見通しを持たせる中で、組織的な活動を仕組む。(吉村)
- ・全校のリーダーとして、下級生を指導し、思いやりの心で集団全体のことを考えられるような活動を行う。(佐野)
- ・定期的な進路相談やスマイルライフを通じて1人1人の生徒と対話を行うことで生徒理解を深めていく。(担任)
- ・「みさと学」から学んだ地域についての学習を発展させ、修学旅行での学習を深める。(全員)

- ・生徒会の取り組みによる「SNS宣言」をもとに、メディアや情報との正しい利用のあり方について考える(佐野)

- ・部長会を組織し、部活動に意欲的に参加することができるように指導する。(吉村)

- ・生徒会の重点活動でもある清掃活動に師弟同行で取り組み、自分たちが生活する環境美化に努める。(永田)

- ・学年通信を週に1回発行し、次週の予定や学校の様子などを保護者にお知らせする。また、PTA活動への積極的な参加をお願いする。(村松)
- ・必要に応じて電話連絡や家庭訪問などを行い、保護者と共通認識を持って指導にあたるようにする。(担任)
- ・地域と連携し、思春期体験等を行い、生命について考える機会とする。(村松)